

F-14 中高年主婦の勤労観 その1 —大阪市およびその近郊都市の場合—
和洋女大文家政 酒井ノブ子
金蘭短大 ○藤原 冬

目的 筆者らは先に女子学生の勤労観につりて実態調査を行ない、その結果を家政学雑誌29巻6号に報告済みである。今回はこれに引き続いて中高年主婦に視点をあて、その勤労観の特質を明らかにしようとするものである。

方法 調査時期は52年12月から53年4月までで、対象者は昭和20年以前の生れの主婦を中高年主婦と仮定し、大阪市およびその近郊都市に住む主婦を年令、職業などを勘案して選び、面接調査をした結果、614名（有効率97.3%）を得た。項目に子や孫の成長を入れた他は女子学生の場合と同じである。

結果 職業別にみると専業主婦と有職主婦の間では、生きがいを感じている事柄や働くことに対する考え方などに有意差がみられた。また年令的には、生きがいや生活そのもの、働くことに対する考え方や余暇の活用や過ごし方などに有意差がみられた。また今回は勤労に対する美徳意識の違いが他の意識と関連がなかりかを分析してみたが、勤労や余暇についての考え方に有意的に関連のあることがわかった。